

# 大型SCを核とする商業

## 大和田商業地開発の立役者

## 街づくりの夢を追う

### 開業の原点は開発行為と地権者交渉

昭和52年11月、福井市二の宮に県内初のショッピングタウン「ピア」が華々しくオープンした。ジャスコを核に地元の特産品による組合が同居した日本初のショッピングセンターで「福井方式」とも呼ばれ、全国的にも注目を浴び視察に訪れるなど話題を呼び盛業をみた。

その後、近隣に大型店が相次いで開店し、客足が減少。県内の12の商業者による「北部商業開発事業協同組合」を設立し、岡晃一郎理事長の下、福井銀行とジャスコ(イオン)の支援を受け新保と林藤島町付近に約20万坪の用地を取得して移転計画を立てていたが、ジャスコの福井から撤退等で計画が頓挫。

同じ頃、バブル経済も雲霧が悪くなり、当時の岡理事長と川口秀男社長は大型用地取

得に5、6年もの年月がかかり、新保、林藤島付近の開発計画はあと僅かの用地交渉が暗礁に乗りあげていた。

途方に暮れていた川口社長は、五十嵐さん何とかならんか」と、(株)ヤシマの五十嵐社長に相談。それなら8号線沿いの大和田地区にしませんか。地元地主との人脈もあるから5万坪ぐらいは何とかなるでしょう」と。この時、即座に決断した川口社長の大英断が、今日の大和田発展に至ったのである。

エルパ、アビタの建設用地4万坪、ざっと約50人の地権者がいた。中には虫食いで街中の人が買った土地もあり、用地買収を進めるにあたり坪20万円レベルで協力をお願いしたが、8号線に面した用地の中には手に負えない地主との交渉など苦労を重ね、買える物件は買い上げ、平成12年10月、ユニが運営する「アビタ」を核にして川口理

# 地集積の消費力絶大

## 川口エルパ理事長

## デベロッパー(株)ヤシマ

福井市北東部の大和田周辺は「大商業地と化し、さらに住環境が整備され宅地開発が進み、住宅地として変貌する」とは、誰が予測したであろう。県内最大のショッピングセンター「エルパ」がオープンするや、その周辺には大手大型店や飲食店、物流センター等が次々と開業。九頭竜川までの田園風景はわずか20年で一変。それこそ、大和田地区の商業地開発に夢をかけたエルパ創設者である川口理事長の情熱と努力の賜物であり、デベロッパー(株)ヤシマ、五十嵐社長の存在も大きい。

### 仲介物件百万坪に及ぶ

福井市東部、特に大和田や開発地区の商業と団地用地開発の立役者である(株)ヤシマ・五十嵐満男社長の仲介物件は45年間で百万坪に及ぶという。五十嵐社長は昭和39年6月、福井市西開発に五十嵐不動産を創業、48年に(株)ヤシマに社名変更。これまでフェアモール福井、福井新聞社、福井北インター流通センター、ワイ

ブラザ、SPORTS DEEP Q、アルビス高木店、ジョーシン福井本店、アビタ福井などの用地取得に取り組み、大型商業用地取得の実績は衆目の認めるところである。今回、大和田周辺が一大商業地に姿を現すまでの経緯を知り尽くし、東部地域開発の生き字引的存在であるデベロッパー・五十嵐社長を訪問し、土地開発にまつわる裏話や、苦労話、今後の動向などを取材した。

全6ページ中の2ページ

